

総合通販事業

専門通販事業



# BELLUNA

Interim Business Report **ベルーナ**

## 第35期 中間株主通信

(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

専門通販事業は、売上・利益の両面でベルーナグループを支えている中核事業の1つです。その特長は、総合通販事業のデータベース活用による **1 収益力の強さ** と、リピートしやすく専門性を持った **2 商品特性** の2点です。

## 1 収益力の強さ

総合通販事業の顧客データベースには、1,200万人のお客様の情報が蓄積されています。専門通販事業では、これを活用してお客様の傾向を長期トレンドで分析し、より潜在ニーズの高いお客様に向けて集中してアプローチすることが可能です。この効率的な販促活動が高い収益性につながっています。



年齢

性別

嗜好

1,200万人の  
顧客データベース

総合通販事業

活用

## 専門通販事業



いきいき家族  
食と花の専門通販



マイワインクラブ  
ワイン専門通販



オージオ  
化粧品専門通販



リフレ  
サプリメント専門通販

## 2 商品特性

専門通販事業では、総合通販事業と比べて1つの商材・分野に絞って展開し、定期購入や年間コースのように継続しやすいサービスメニューを充実させるなど、「リピート」にこだわっています。読み物としても楽しめるカタログやサイトコンテンツも設けており、専門性が高い点も魅力です。

マイワインクラブは、

## 2年連続国内ワイン通販売上高No.1!

マイワインクラブの前期通販売上高29億円は日本国内におけるワイン通販でNo.1の実績となり、しかも2年連続でNo.1であることが判明しました(D&B TSR社調べ)。この背景には、左ページのような専門通販事業の特長を活かした「3つのこだわり」があります。

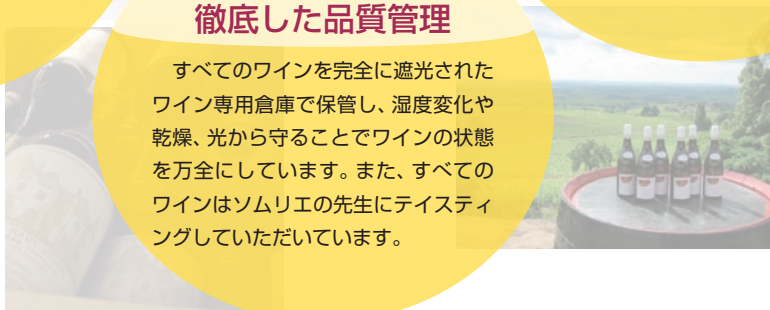
### こだわり 1 頒布会スタイル

頒布会とは、1つのテーマに沿った異なる商品を年間通して継続的にお届けする販売方法です。毎月違う種類のワインが届く楽しみのある頒布会スタイルがお客様に大変好評で、継続率はなんと70%にも上ります。



### こだわり 2 徹底した品質管理

すべてのワインを完全に遮光されたワイン専用倉庫で保管し、湿度変化や乾燥、光から守ることでワインの状態を万全にしています。また、すべてのワインはソムリエの先生にテイastingしていただいています。



### こだわり 3 現地での直接買い付け

当社スタッフが現地ワイナリーと直接交渉による買い付けを行うことで、高品質かつ日本の市場にあまり出回らない傑作ワインを、リーズナブルな価格でお客様にお届けしています。



### トピックス：プライベートブランド(PB)ワイン『コンドール・アンディーノ』誕生

マイワインクラブは、日本の小売業者・輸入業者としては初めて、アルゼンチントップクラスのワイナリー「アンデアン・ヴィンヤーズ」とPBワイン『コンドール・アンディーノ』を共同開発しました。1本当たり税込830～1,260円という低価格と、「家飲み」ニーズを的確に捉えたことで、2010年6月の発売以来2.5カ月で売上本数は16,000本を突破しています。[専門サイト] <http://mywineclub.com>





財務内容の健全性を維持し、データベース関連事業の収益性を基盤に成長を加速させてまいります。

### 当第2四半期の概況

当第2四半期の連結ベースの売上高は、前年同期比1.8%増の468億円となりました。これは主力の総合通販事業セグメントにおいて同8.8%伸長した一方、引き続きファイナンス事業では営業貸付金の圧縮を進めたことと同45.8%減少したことなどによるものです。

利益面では、経常利益は前年同期比47.7%増の25億円、四半期純利益は同11.5%増の12億円となりました。経常利益の増加は、総合通販事業においてアクティブ会員数の増加により媒体効率が改善したこと、専門通販事業で収益性を重視して当期は媒体発行を抑制したこと、およびファイナンス事業で貸倒引当金繰入額が減少したことが主な要因です。

また、財政状態については、当第2四半期末の総資産は平成22年3月末に比べて78.3億円減少し、1,119億円となりました。一方、負債は平成22年9月末の社債償還などにより、同83億円減の572億円となりました。純資産は同4.8億円増の547億円となり、自己資本比率は48.9%と同3.6ポイント上昇しました。

## 当社を取り巻く環境

当第2四半期の国内経済は、政府の経済対策効果や新興国への輸出増加により回復基調にありましたが、世界経済の減速懸念や急激な円高など先行きに対する不透明感から企業の設備投資意欲や個人消費は依然として冷え込んでおります。

通信販売業界は、以前に比べると成長率はやや低下してきたものの拡大が続いています。新規参入企業の増加の傾向も依然として変わりありませんが、競争激化も一方では通販代行やインフラ受託などのビジネスチャンスの拡大につながっており、全体としては、厳しいながらも堅調な業界であると言えます。

このような環境下で、当社は引き続き財務内容の健全化とアクティブ会員数の増大に取り組み、データベース関連事業(総合通販事業、専門通販事業、ソリューション事業)を中心とした収益基盤の再構築に注力しております。

## データベース関連事業の強化

総合通販事業は、昨年秋冬シーズンから回復トレンドに転換しておりますが、当第2四半期もその傾向が続いています。特に、近年の商品政策の見直しやサービスレベルの向上施策が奏功し、「アクティブ会員数(直近2年以内に購入した履歴のあるお客様の数)」が増加したことで、効率的な媒体展開が可能となった結果、売上・利益両面の増加につながっています。

当社において最も重要な経営資源である「顧客データ

ベース」でつながる事業は、アクティブ会員数の増大によってシナジー効果が生まれ、成長が加速する傾向にあります。足元では、ソリューション事業がその恩恵を受けており、前年同期比で62.4%増と大きく伸長しました。アクティブ会員数は、「新規獲得」「卒業防止(リピート促進)」「掘り起こし(再喚起)」の3点がポイントとなり増減しますが、中でもEコマースの促進による「新規獲得」と各リピート施策による「卒業防止」に注力しています。当社は引き続きこの2点に注力し、他事業にも波及効果をもたらす「アクティブ会員数の増大」を追求してまいります。

一方、もう1つのデータベース関連事業である専門通販事業においては、当第2四半期の売上高は同10.0%減で着地しています。メーカーなどの新規参入の増加で競争が激化しているこの分野では、短期的な収益と将来の成長を見込んだ投資のバランスが求められます。当第2四半期は媒体効率を優先しておりますが、専門通販事業は売上面でも利益面でもグループの中で重要なウェイトを占めることから、成長性と収益性の両面を睨んだ施策を講じてまいります。

## 財務内容の健全化の進捗

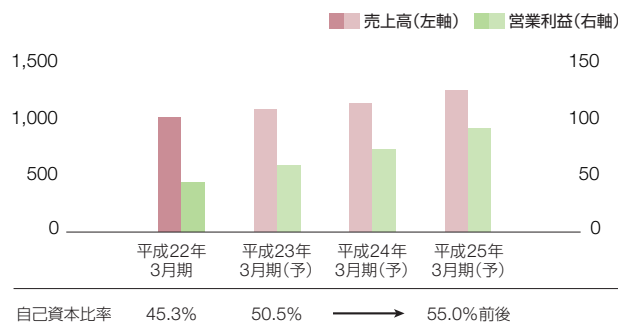
データベース関連事業を強化する一方、「(経営資源の)2次活用事業」については安全性を重視した事業展開を進めています。ファイナンス事業については、引き続き営業貸付金(含む破産更生債権等)の回収を進め、平成22

年3月末比45億円減となる246億円に圧縮しています。また、平成22年9月末の社債償還などにより有利子負債は同73億円減の300億円となりました。この300億円には、平成24年3月末に償還を迎える110億円の新株予約権付社債が含まれていますが、財務内容の改善と主力事業の業績回復で現預金も徐々に積み上がってきたことから、当第2四半期には買入も進めており、財務キャッシュフローは前年同期比を上回る支出となりました。

### 短期業績見通しと方針

このような進捗を踏まえ、当社は財務内容の健全性を維持し、データベース事業の収益性を基盤に成長を加速させる所存です。平成25年3月期には売上高1,235億円、営業利益90億円の達成を視野に、「①データベース関連事業の強化」「②2次活用事業の新規立ち上げおよび強化」「③財務健全性の強化」「④コンプライアンス・ガバナンス体制の維持」を方針として取り組んでまいります。

### 業績見通し（億円）



### 経営基本方針

- ① データベース関連事業の強化
  - 総合通販事業：リストの活用およびEコマースの強化
  - 専門通販事業：媒体・チャネルの拡大と強化
  - ソリューション事業：アクティブ会員数の増大を背景にした新規開拓
- ② 2次活用事業の新規立ち上げおよび強化
- ③ 財務健全性の強化
- ④ コンプライアンス・ガバナンス体制の維持

### 株主還元

当社は、前述の基本方針に沿って施策を実行し、確実に企業価値を向上させることで株主の皆様の日ごろのご支援に報いることも重要な方針として考えています。また、配当については、平成25年3月期までは毎期の業績回復の状況および中期的な成長のための戦略的投資を勘案しつつ、安定した配当を行う予定です。

引き続き、当社は創業以来の「顧客志向・顧客密着」という方針に忠実に、お客様の衣食住遊を豊かにする商品・サービスを時代のニーズに合った形で提供し続け、多くのお客様に支持される企業を目指してまいります。

今後とも、当社および各事業へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

代表取締役社長 安野 清

# 連結業績の推移

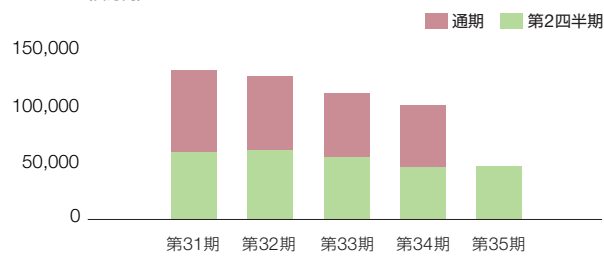
(単位：百万円)

	第31期		第32期		第33期		第34期		第35期
	第2四半期 平成18年9月	通期 平成19年3月	第2四半期 平成19年9月	通期 平成20年3月	第2四半期 平成20年9月	通期 平成21年3月	第2四半期 平成21年9月	通期 平成22年3月	第2四半期 平成22年9月
売上高	58,796	129,912	60,235	125,173	54,646	109,912	46,008	100,101	46,822
経常利益	5,317	12,622	5,059	7,151	2,236	△2,239	1,659	4,267	2,450
四半期(当期)純利益	2,983	7,141	2,683	3,435	443	△8,763	1,039	1,276	1,158
1株当たり純利益(円)	56.24	134.88	51.13	66.14	8.74	△173.72	20.74	25.47	23.12
総資産	126,333	149,239	157,076	160,707	155,947	133,868	126,259	119,703	111,878
純資産	61,970	64,718	64,927	64,327	64,061	53,808	54,452	54,217	54,692
総資産利益率(ROA)(%) <sup>※1</sup>	—	9.3	—	6.8	—	1.0	—	3.6	—
自己資本利益率(ROE)(%) <sup>※2</sup>	—	11.7	—	5.3	—	-14.9	—	2.4	—

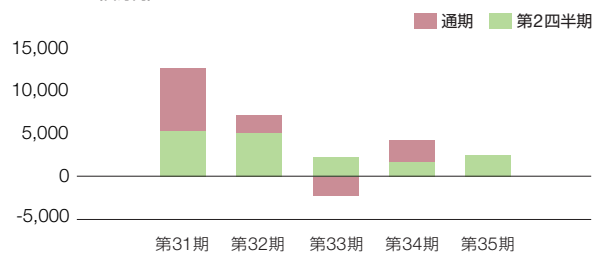
※1 総資産利益率 = (営業利益 + 受取利息及び配当金) / 期首・期末総資産平均

※2 自己資本利益率 = 当期純利益 / 期首・期末自己資本平均

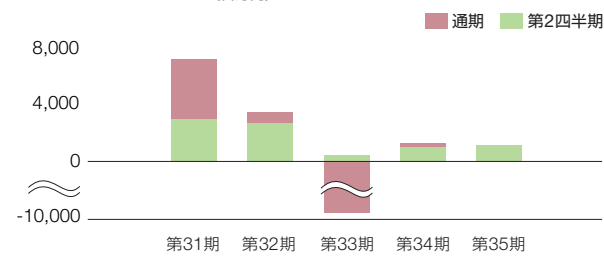
売上高 (百万円)



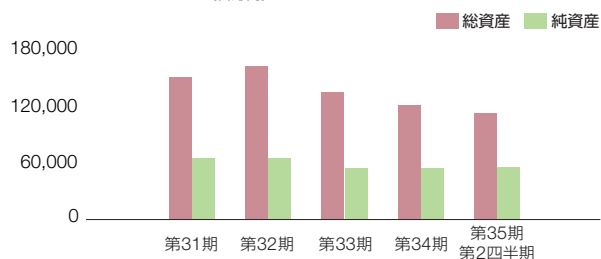
経常利益 (百万円)



四半期(当期)純利益 (百万円)

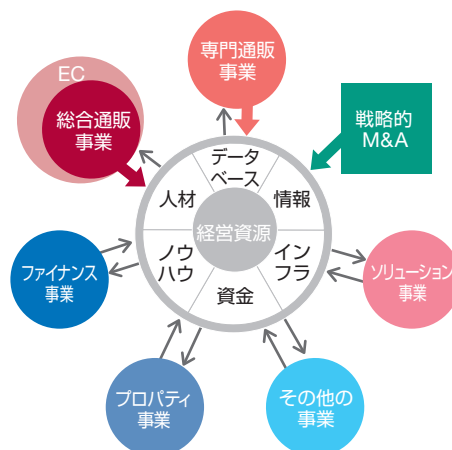


総資産および純資産 (百万円)



## ビジネスモデル

ベルーナは、総合通販事業で培った全国1,200万人以上の顧客データベースやコンタクトセンターおよび物流センターなどの通販インフラといった経営資源を保有しています。この強みを最大限に活かし、成長性と収益性が見込まれる専門通販、受託などの事業を展開してきました。今後も顧客志向・顧客密着を合言葉に、経営資源の有効活用によって様々なニーズに応えたサービスを展開する「通販総合商社」を目指します。



### 総合通販事業

カタログなどを媒体とするアパレル、雑貨、インテリア用品などの通信販売事業。特に若年層に向けては、インターネットやモバイルを活用して展開

### 専門通販事業

単体、および子会社で展開する、グルメ・化粧品・健康食品などの専門分野に特化した通信販売事業

### ソリューション事業

封入・同梱事業、および受託事業から成る、当社のデータベースやインフラを活用したサービス事業

### ファイナンス事業

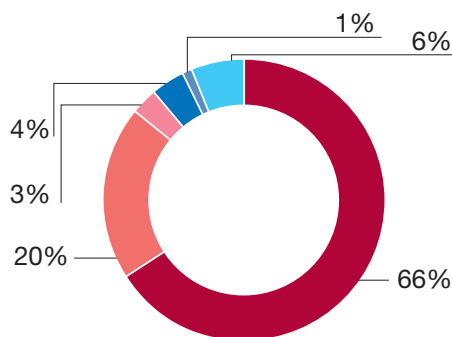
通信販売事業の顧客を主な対象としたB to Cファイナンス事業、および事業会社向けのB to Bファイナンス事業、韓国でのファイナンス事業

### プロパティ事業

オフィスビルなどの賃貸、および再生・開発を手掛ける不動産事業

### その他の事業

商品企画のノウハウを活用した卸販売事業など



第2四半期  
連結売上高 **468**億円



## 連結財務諸表（要旨）

### 第2四半期連結貸借対照表

（単位：百万円未満切捨）

	前第2四半期 平成21年9月現在	当第2四半期 平成22年9月現在	前期末 平成22年3月現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	77,361	64,359	72,598
固定資産	48,897	47,518	47,104
有形固定資産	28,864	28,021	28,251
無形固定資産	5,325	5,654	6,064
投資その他の資産	14,707	13,842	12,788
<b>資産合計</b>	<b>126,259</b>	<b>111,878</b>	<b>119,703</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	53,809	34,423	42,079
固定負債	17,997	22,762	23,405
<b>負債合計</b>	<b>71,806</b>	<b>57,185</b>	<b>65,485</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	55,531	56,175	55,392
資本金	10,607	10,607	10,607
資本剰余金	11,003	11,003	11,003
利益剰余金	42,717	43,361	42,578
自己株式	△8,796	△8,796	△8,796
評価・換算差額等	△1,079	△1,483	△1,174
少数株主持分	0	0	0
<b>純資産合計</b>	<b>54,452</b>	<b>54,692</b>	<b>54,217</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>126,259</b>	<b>111,878</b>	<b>119,703</b>

#### 【資産合計】

前期末に比べ、資産合計は7,825百万円減少しました。これは、社債償還に伴い現預金が6,079百万円減少したこと、ファイナンス事業において営業貸付金（含破産更生債権等）が4,519百万円減少したことが主な要因です。

#### 【負債合計】

前期末に比べ、負債合計は8,300百万円減少しました。これは主として、社債償還により有利子負債が7,304百万円減少したことによるものです。

### 第2四半期連結損益計算書

（単位：百万円未満切捨）

	前第2四半期 自平成21年4月 至平成21年9月	当第2四半期 自平成22年4月 至平成22年9月	前期 自平成21年4月 至平成22年3月
<b>売上高</b>	<b>46,008</b>	<b>46,822</b>	<b>100,101</b>
<b>売上総利益</b>	<b>26,457</b>	<b>26,868</b>	<b>56,834</b>
販売費及び一般管理費	24,932	24,190	52,502
<b>営業利益</b>	<b>1,525</b>	<b>2,678</b>	<b>4,332</b>
営業外収益	686	390	1,158
営業外費用	552	618	1,223
<b>経常利益</b>	<b>1,659</b>	<b>2,450</b>	<b>4,267</b>
特別利益	33	47	604
特別損失	—	277	1,351
<b>税金等調整前四半期(当期)純利益</b>	<b>1,693</b>	<b>2,221</b>	<b>3,520</b>
法人税、住民税及び事業税	645	828	1,817
法人税等調整額	7	234	426
<b>四半期(当期)純利益</b>	<b>1,039</b>	<b>1,158</b>	<b>1,276</b>

#### 【売上高】

総合通販事業が順調に売上を伸ばした他、その追い風もあってソリューション事業が大幅に増収となりました。一方、残高を圧縮したファイナンス事業は大幅減となりました。

#### 【営業利益】

収益重視でコストをコントロールした専門通販事業は、大幅増益となりました。また、総合通販事業では、アクティブ会員数の増加により媒体効率改善し、黒字に転換しました。

### 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円未満切捨）

	前第2四半期 自平成21年4月 至平成21年9月	当第2四半期 自平成22年4月 至平成22年9月	前期 自平成21年4月 至平成22年3月
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,202	4,460	21,222
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,874	△2,137	△2,294
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,425	△9,354	△14,788
現金及び現金同等物に係る換算差額	△91	△53	△58
現金及び現金同等物の増減額	811	△7,085	4,080
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	17,897	14,080	21,166

## 株式の状況（平成22年9月30日現在）

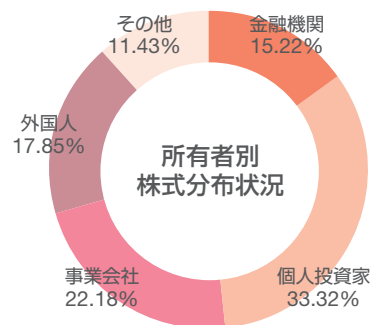
発行可能株式総数 ..... 130,000,000株

発行済株式の総数 ..... 56,592,274株

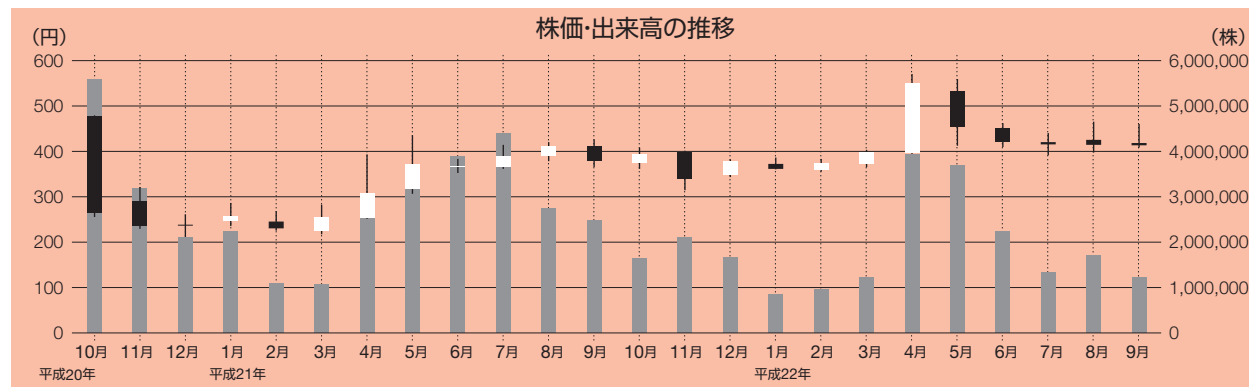
株主数 ..... 7,510名

### 大株主

大株主(上位10名)	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
安野 清	10,598	21.14
株式会社フレンドステージ	7,264	14.49
ビービーエイチフォーフィデリティロープライスストックファンド	5,100	10.17
有限会社日本リポワール	4,359	8.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	3,678	7.34
安野 公	1,662	3.32
株式会社三井住友銀行	1,123	2.24
野村信託銀行株式会社	1,044	2.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	818	1.63
みずほ信託銀行株式会社	773	1.54



注)信託銀行各行の持株数には、信託業務に係る株式が含まれております。



## 会社の状況（平成22年9月30日現在）

商号	株式会社ベルーナ
資本金	106億7百万円
代表者	安野 清(代表取締役社長)
創業	昭和43年9月
設立	昭和52年6月
従業員数	995名(連結)
事業内容	カタログ等による通信販売を核に、 受託、金融、卸売等の分野で 展開する通販総合商社
主な事業所	本社 (埼玉県上尾市) 本館 (埼玉県上尾市) 東京オフィス (東京都新宿区) アネックスビル・第2アネックスビル (埼玉県上尾市) 北関東オーダーレセプションセンター (埼玉県鴻巣市) 川越オーダーレセプションセンター (埼玉県川越市) 領家丸山流通システムセンター (埼玉県上尾市) 宇都宮流通システムセンター (栃木県鹿沼市) 領家山下クリニックセンター (埼玉県上尾市) 領家山下流通システムセンター (埼玉県上尾市)

役員	代表取締役社長	安野 清
	専務取締役	島野 武夫
	取締役	穴戸 順子
	取締役	生川 雅一
	取締役	高橋 利郎
	取締役	須藤 滋
	取締役	安野 雄一郎
	取締役	野村 育孝
	常勤監査役	藤田 秀二
	監査役	中村 勲
	監査役	渡部 行光

ホームページ (企業ホームページ)  
<http://www.belluna.co.jp/>  
(IR専用ページ)  
<http://www.belluna.co.jp/ir/>



## 株主メモ

- 事業年度 ..... 4月1日～翌年3月31日
- 配当金受領株主確定日 ..... 期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日
- 定時株主総会 ..... 6月下旬
- 基準日(定時株主総会関係) ..... 3月31日
- 株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関 ..... 三菱UFJ信託銀行株式会社  
〒100-8212  
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
- 同連絡先 ..... 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
☎0120-232-711(フリーダイヤル)
- 公告の方法 ..... 電子公告により行う  
<http://www.belluna.co.jp/>  
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

### 【お知らせ】

- 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社 **ベルーナ**

〒362-8688 埼玉県上尾市宮本町4番2号  
TEL : 048-771-7753(代表)  
(ホームページ)<http://www.belluna.co.jp/>



本誌は、古紙配合率100%の再生紙に  
植物インクを使用して印刷しています。